

別記様式第3号

## 議事録

委員会名	葛飾区消防団運営委員会
日 時	令和7年1月14日(火) 14時57分から15時23分まで
場 所	葛飾区役所 5階庁議室(東京都葛飾区立石五丁目13番1号)
諮問事項	変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか
出席者	委員長 青木 克徳(葛飾区長) 委員(敬称略) 堀越 克夫(本田防火防災協会長)、矢部 文雄(金町防災協会長) 平田 みつよし(都議会議員)、米川 大二郎(都議会議員) 和泉 なおみ(都議会議員) 江口 ひさみ(区議会議員)、大高 拓(区議会議員) 木村 ひでこ(区議会議員) 古沢 良司(本田消防団長)、臼倉 龍太郎(金町消防団長) 大橋 一朗(本田消防署長)、村上 博人(金町消防署長)
欠席者	北口 つよし(都議会議員)、梅沢 とよかず(区議会議員)
傍聴者	1名
配布資料	1 葛飾区消防団運営委員会答申書(案) 2 消防団員資格取得等の一覧表(資料1) 3 葛飾区消防団運営委員会アンケート結果(資料2) 4 葛飾区消防団運営委員会答申概要版(案)
	議事録
危機管理 防災担当 部長	これから葛飾区消防団運営委員会を開催させていただきます。 私は本日の司会進行、危機管理防災担当部長の情野です。 はじめに委員会委員長の青木区長からご挨拶申し上げます。
青木委員長	皆さんこんにちは。 消防団運営委員のみなさん、お忙しい中ありがとうございます。 昨日も日向灘で震度5弱の地震がありました。昨年は、いろんな災害や水害及び地震が起ころのが現実であり、そのようなことに適切に対応するためには、今回の諮問の中でも消防団の役割についていろんな形で触れられておりますけれども、ぜひ消防団の皆さんのが活動しやすい、そして消防団に入っていただけるような状況となるよう、これからもしっかりと取り組んでいこうと思っておりますので、今日もご審議よろしくお願ひします。皆さんと連携しながら、葛飾区全体が災害に対応できる災害に強い街になるように、取り組んでまいりたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

危機管理 防災担当 部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、本日の欠席者については、北口委員、梅沢委員の二名です。</p> <p>本日の傍聴者については、一名の傍聴希望者が来ております。傍聴人を入室させてよろしいでしょうか。</p>
青木委員長	はい、お願ひします。
危機管理 防災担当 部長	<p>それでは、これより議事に入ります。</p> <p>議事の進行については委員長に進めていただきます。</p> <p>委員長よろしくお願ひいたします。</p>
青木委員長	<p>それでは、議事を始めたいと思います。</p> <p>令和5年8月16日付けで都知事から「変化する社会情勢に適応した特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあらるべきか」との諮問がございました。皆様にご審議をいただきまして令和7年3月31日に答申をすることになっております。昨年の2月、7月に委員会を開催しまして、検討の答申案についてご審議をいただきました。</p> <p>3回目は、前回までの審議内容に基づいて答申案を作成し、その内容についてご審議いただくことになりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>答申案につきまして、担当事務局の本田消防署の警防課長から説明してください。</p>
本田消防署 警防課長	<p>本田消防署警防課長の後藤でございます。</p> <p>まず委員の皆様におかれましては、令和5年の都知事からの諮問に対しまして、これまで2回にわたりご審議いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日は第3回目で、諮問に対する最後の委員会ということで、本日の結果を持ちまして都知事に答申させていただきます。委員長からもありましたとおり、前回までの審議内容に基づいて作成しました答申書の案と概要版の案、添付の資料1及び資料2を合わせまして、都知事への答申といたします。おかげさまを持ちまして、葛飾区の消防団の現状を踏まえた建設的な答申書になったと考えております。</p> <p>今回は、前回から追加修正した箇所についてご説明させて頂きますので、ご確認いただきますようよろしくお願ひいたします。それではまず答申書からご説明いたします。</p> <p>答申書の2ページ目、前回いただきましたご意見から別表2、消防団員の充足率のグラフを追加しております。過去6年間で、本田消防団では充足率約68%前後、金町消防団は充足率約76%前後で推移しております。</p> <p>また、次の3ページ目、こちらの別表3につきましてもご意見を踏ま</p>

えまして、男女別の平均年齢の推移を追加しております。青の点線は葛飾区の男性団員の平均年齢、赤の点線は女性団員の平均年齢となっております。男性団員の方は、平均年齢が若く、過去5年間で徐々に平均年齢が上がってきてているのに対し、女性団員の方は平均年齢が下がっています。これは、最近ママ友付き合いから入団するママさん団員が増えたというのも影響しているものと推測しております。今後、消防団にとつて大きな戦力になるとと考えています。こちらの答申書案の追加変更点は以上になります。

続いてカラーの概要版のご説明をいたします。

こちらにつきましては赤字で示しました3点、こちらを追加しております。1つ目は課題1の検討事項の2番目、最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策についての3番目、各種資機材の方針に合わせた身体的な負担の軽減と活動環境の整備というところの、新たな資機材整備の消防団施設の欄に、パーテーションを追加しております。本来、消防団施設に備え付けの女性用更衣室等があればよいのですが、カーテン式のパーテーションのようなもの、あるいはテント式のようなもの、このようなものがあればプライバシーも最低限確保され、女性団員の活動環境の整備につながると考えています。

次に概要版2つ目ですが、資機材整備の水災時の資機材として、大型ゴムボートと水深棒及び要救助者用ライフジャケットを追加しております。従来よりも多くの方が乗れるゴムボートには車椅子の方がそのまま乗れるものもあります。

また、船外機を付けてエンジンで運航するだけでなく、消防団員が歩きながらボートを引っ張って救出する活動も考えられるということで、この場合の消防団員の安全を考えますと、浸水箇所の水深を図る水深棒も必要になると考えています。さらには、消防団員用だけでなく救出される方用、要救助者用のライフジャケットも必要であると考えています。

最後に3点目ですが、課題2の検討事項1番目、消防力維持のための計画的な人材育成方策についての1番目、経験が浅い消防団の教育訓練体制と訓練指導体制強化の対応策としては、火災現場に対応できる段階的な訓練および実戦的消防活動の総合的な効果確認の実施を追加しました。昨年、本田消防団は消防団操法訓練以外に、実際の火災対応を想定した実戦的な訓練を実施しました。

こちらは、出動指令が流れ、防火衣を着装して可搬ポンプ積載車に乗って出動し、消火栓あるいは防火水槽に部署して訓練建物へ実際に放水して消火するという一連の訓練となっています。

	<p>また、救助訓練では、消防団に配置されているチェーンソーを実際に使用して丸太の切断訓練も実施しました。</p> <p>ポンプ操法も重要ですが、実際に火災があった場合に安全・確実・迅速に活動するためには、このような訓練も必要であると考えています。訓練後に行った消防団員へのアンケートでも、実戦的訓練の必要性を感じるという回答が多かったです。</p> <p>昨年末から今年にかけて本田管内で発生した建物火災において消防団が実際に放水して延焼を防止するという積極的な活動に繋がっていると感じております。また、訓練を確認しますと、訓練経験の多いベテラン団員と入団して間もない経験の浅い団員のレベルの差がはっきりと出ております。このように、レベルの差を把握して、各団員のレベルに合った段階的な訓練を行うことが、安全で効果的な活動につながるだけでなく、訓練のマンネリ化も防ぎ、団員のモチベーションの向上にもつながっていくと考えております。以上、簡単ですが前回から追加修正した内容となっております。ご確認の程、よろしくお願ひいたします。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ご説明がありました答申案について、審議を進めていきたいと思います。ご意見やご質問等がございましたら、举手の上、発言をしてください。</p>
和泉委員	<p>前回、審議をした時に、いくつか資料を作っていただきたいとお願いした部分を反映していただきありがとうございます。</p> <p>やはりアンケート調査に取り組んでいただき、実際に声を引き上げながら真面目な議論がされていることに、私たちも感謝したいと思います。</p> <p>アンケートの中で、例えば、消防団に入団して良かったと感じている方が圧倒的に多数ですけど、どちらとも言えない、あまりない、全くないと回答した方の具体的な理由について掘り下げてまとめる必要があるのかなと思っています。</p> <p>一連のアンケート調査を通じて、私の感じたことを申し上げておきたいと思うのですが、消防団活動が操法大会の訓練とイコールになっているという意見が出されています。操法大会は、ただ単に大会に参加するだけではなく、災害現場に行った時に、いかに機敏に的確に指示や命令に従って活動するために行われていると思います。けれども、その動機付けがやはりしっかりと理論的にも団員の皆さんに周知することが必要なのかなということを、このアンケート結果を通じて感じたところです。そこをやはり強めていくことが団員の皆さんのがいにもつながっている。答申の中にもありますが、実際に火災が減っているもとで消防団の活動がいかに重要なのか、いざという時にこの訓練がどう役立つか、実際の訓練で</p>

	<p>行われたような訓練ももちろん大事ですけれども、きちんと理論的にも理解していくということも非常に重要なと、それがやりがいを感じことができないと思っている団員の皆さんの中の動機づけやモチベーションにもつながっていくのではないかなと思いました。</p> <p>それともう一つは連絡体制です。なかなかここでも連絡体制についていろんな意見が出ていますけれども、この連絡体制がしっかりと一人一人の団員の皆さんに届くと、災害があった時あるいは必要な訓練が行われる時にしっかりと一人一人の団員の皆さんに伝わっていくという連絡体制の強化は非常に重要だと思いました。一人一人の団員が必要とされている、自分が必要とされている存在だということを実感していただくためにも、そのところの強化が必要だと思いますが、これはシステムや機材を含めて、消防団だけではなくて葛飾区にも力を貸していただきたいところだと思いますし、やはり東京都においてもしっかりと予算措置を行ってバックアップができるような体制が必要なのだろうというように感じました。</p> <p>こうして参加させていただいているわけですから、ここから送っていたいている委員が力を合わせて、そのバックアップを行えるようにしていきたいなというふうに思うのと、まだまだしっかりと分団本部を作ることが必要だなという部分もあります。土地の確保がやっぱり一番のネックというふうに思うのですが、土地の確保は消防団のみなさんに任せているだけではやっぱりできませんから、そのところは葛飾区でも力を入れていただいているところだというふうに思いますけれども、葛飾区だけではなくて、やはり東京都もしっかりと役割を果たさないといけないところでして、議会でも要求しなくてはいけないことだなというふうに思いました。いずれにしましても、本当に消防団員の皆さんアンケートを通じて、必要な資格、新しい資格について、それから拡充して欲しいと思っている講習についても、非常に日常の活動に真摯に向き合って、真面目にもっとこういうことが学びたい、もっとこういうことが必要だと思ってている様子がアンケートからも伝わりましたから、そういうものも含めて私たちもしっかりと取り組んでいかないといけないというふうに思いました。ありがとうございます。</p>
危機管理 防災担当 部長	一点補足よろしいでしょうか。今いただいたところの連絡体制の関係について、葛飾区では、来年度に総合防災システムの導入を予定しております、その中には消防団員さんとの情報共有ツールにも使えるようにということで、開発を進めていく予定になっています。本部がつかんでいる情報や皆さん方が現場で確認した情報なんかのやり取りがDXを使ってやっていくようなことも想定して、今検討しておりますので、基本的にはどちら

	がやるかということはあまり関係ないのかなというところもありますので、DXを推進して、そういう形のものを強化していくことは少しでも進めていきたいというふうに思っています。よろしくお願ひします。
青木委員長	いずれにしてもアンケートなど、その他要望いただいたことは東京都と連携して、必要なことはしっかりとやってまいりたいと思っております。他にございますか。
米川委員	一つ伺いたいのが、実戦的訓練ですが、実施に行うにあたって大変だったとか、こういう事があったらもっとやりやすいよとか、実施したことによって課題などはあったでしょうか。
本田消防署 警防課長	まず、場所の問題がありまして、東京消防庁の奥戸訓練場を使ったのですけれども、訓練場が改修工事に入りますので、この代替となるような場所があると非常にありがたいなと思います。あと、時期の問題もありまして、訓練は9月に実施したのですけれども、まだ暑い時期で熱中症に配慮しながらやったところがあるのですけど、やっぱり防火着装しますと相当暑いですので、考慮しないといけないと感じています。
米川委員	広さ的には、どのぐらいの広さがあればいいと思ったのでしょうか。
本田消防署 警防課長	そうですね。水利部署ができてホースを二本から三本延長して放水ができるぐらいのスペースがあれば、なんとか訓練はできると思います。
青木委員長	はいありがとうございます。他にいかがですか。
平田委員	この最後の答申の7ページの7行目なのですが、在団要件、その地域において消防団活動が可能かという観点で入団要件の見直しを図るべきであるということについて、先月の第4回定例会において質問させていただきまして、見直しを検討するというご答弁をいただきました。今、その方向で調整していただいているというふうに職分しておりますので、このまさに葛飾区消防団運営委員会の提案・提言が現実の方向に向かって行くということで、本当に良かったと思っておりますので、また引き続きこの委員会でいろんなお声を率直に伺えればなと思っております。よろしくお願ひいたします。
青木委員長	ありがとうございました。それでは、いくつか意見を頂きましたことを踏まえつつ、この答申案について決定させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。
各委員一同	異議なし。
青木委員長	はいありがとうございます。それでは、決定とさせていただきます。それでは、本日の審議は以上となります。3回にわたるご審議の結果、答申をまとめることができました。多くのご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。